

資料4. 離島創生に向けて(キーワードなど)

● 第1回懇談会での主なキーワード



キーワードなど：離島創生に向けて

【誇り無くして人は戻らず】

- 離島では、親は子供に、勉強して良い学校に入って安定した職業につくよう、幼い頃から言い聞かされている。これでは、誇りは育たない。島に、子供は帰ってこない。
- いつか戻ろうと島を出る。帰ってこなくてもいいと親も言う。
- 志を果たしに、いつの日にか帰らん。
- 島の人たちは、自分たちの島の魅力に気づいていない。島の魅力を捉えて、観光を促進し、交流人口の拡大を。

【教育無くして人は戻らず】

- 島を出る「15の春」までに、何をしてあげられるのか。
- 高校の魅力化プロジェクトで、生徒の半数は島外出身者。魅力的な教育があれば、離島でも生徒は集まる。
- 島留学など本土から島の学校へ通う子供の支援。
- ICTを活用した小規模学校同士の連携。

キーワード: 離島創生に向けて

【魅力的な地域資源で／外から稼いで中で廻す／自立的ビジョン】

- 地域産業の活性化には、**明確なビジョン**が必要である。
- 島外で稼いだお金を島内の経済で循環させる発想が重要である。
- 地域再生産が重要。海という資源を余すところなく活用していく「**海業**」という捉え方。
- 離島には、**様々な地域資源が転がっている**。大手旅行会社の開発する商品ばかりに頼らず、島の魅力を外の人に見せていくことが必要。**伝統文化を継承し、既存ストックの保全・有効活用方法を、離島から発信していく適期**。
- 定住・創業の中長期的な支援。
- 古民家の宿泊施設への活用促進。
- 民間企業と離島地域のお互いのニーズのマッチング。

【終の棲家に】

- 離島では、全国よりも自分たちの居住地を終の棲家にしたいとの希望者が多い。

【その他】

- 屎尿処理・ゴミ処理などへの対応(循環型社会の構築)
- 高齢者・身障者に配慮した災害時の避難施設配置

【定住環境の把握手法に関するご意見など】

- 島内外に広がっている生活圏の実態を考慮して、人口動態や就業環境、生活必需サービスへのアクセス環境に着目する視点は有効か。
- 離島における生活コストに注目しての暮らしやすさにも注目することも一案。
- 今後、離島が目指すべき定住環境を議論するのであれば、他地域との比較が必要。
- 今回の調査において、島外への通勤者、島外からの島内への通勤者、本土の学校へ通学する生徒、傷病の程度に応じた島内外への通院者など、本土へ広がる多くの生活圏の実態が浮き彫りになっている。今後、島の定住環境のあり方を議論していくにあたっては、本土も含めた生活圏として定住環境を捉え、検討していく必要がある。